

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 12月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000309
法人名	株式会社トミタ
事業所名	グループホームなかよし倶楽部
所在地	富岡市七日市676-4 (電 話) 0274-89-3000
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年11月12日

【情報提供票より】(平成21年10月26日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算	6.5人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	1,500円/日 円	その他の経費(月額)	原取りパッド代 100円/枚 水光熱費 500円/日
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(36ヶ月)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日1,000円		

(4)利用者の概要(10月 26日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.8 歳	最低 74 歳	最高 104 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	富岡総合病院、公立七日市病院、村田内科医院、おのざわ歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は富岡市の中心部にあり、上信電鉄西富岡駅より徒歩1分、公立七日市病院まで徒歩5分、周囲に食堂などの商店が点在する閑静な住宅街にある。季節に応じた花見やドライブの他、県内にある系列グループホームの畑で収穫祭、餅つき大会やイモ煮会を合同で開催するなど戸外に出かける支援を行っている。また、近隣からの入居者には毎夕食時家に帰り家族と食事を共にするなどの柔軟な支援を行うと共に、入居者の意向による自宅訪問や実家の新築祝いに出かけたり、一人だけのドライブや希望する化粧水の買い物など個々の希望に沿った個別ケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価の改善課題である「地域密着型サービスとしての理念」「運営推進会議を活かした取り組み」「同業者との交流を通じた向上」「鍵を掛けないケアの実践」「災害対策」については職員と話し合っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は、ホーム長が原案を作成し、申し送り時に職員の意見を聞きとりまとめている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	第1回会議を11月8日に開催し、芋掘り大会等の活動内容を報告している。市役所担当者からは2ヶ月に1回開催されるよう指導され、家族からは昼食を兼ねた会議の開催、入居者と家族および職員との小旅行の実施、家族への書面による会議内容の通知、アンケート調査の実施などの意見や要望が提案されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	面会時に日常生活の状況や健康状態を報告し、面会の少ない家族には健康状態等を記載した文書にドライブ等の写真を添付し報告している。骨折で退院した入居者の家族からリハビリの要望があり、足腰の強化のためのリハビリを行っている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し、側溝の清掃や自治会主催の祭りに参加している。民生委員が毎月来訪し、入居者とお茶を飲み話し相手となっている。大正琴やハーモニカのボランティアが入居者と食事をとったり、近隣の人達から野菜を頂戴するなど地域との交流に努めている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は、「全てのご利用者様が、我々の父であり、母であり、祖父であり、祖母であると肝に命じ、このホームが真の家庭となり家族となり得よう心の通った介護を提供する」という理念を掲げ支援している。	○	理念は事業所が目指すサービスのあり方を示すものであり、地域密着型サービスの目的や役割を管理者及び職員で話し合い、理念の見直しをされるよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りや理念を復唱し、確認している。家庭的雰囲気やありがとうの気持ちを大切に、父母や祖父母のように接するなど理念に沿った介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、側溝の清掃や自治会主催の祭りに参加している。また、民生委員が毎月来訪し、入居者とお茶を飲み話し相手となっている。大正琴やハーモニカのボランティアが入居者と食事を摂ったり、近隣の人から野菜を頂戴するなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はホーム長が原案を作成し、申し送り時に職員の意見を聞き取りまとめている。前回外部評価の改善課題である「地域密着型サービスとしての理念」「運営推進会議を活かした取り組み」「同業者との交流を通じた向上」「鍵を掛けないケアの実践」「災害対策」について職員と話し合っている。	○	自己評価と外部評価の意義やねらいを運営者・管理者・職員で話し合い、全員で自己評価に取り組むと共に、前回外部評価の「取り組みを期待したい内容」については改善シートを作成し課題の改善を図るよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回会議を平成21年11月8日に開催し、芋掘り大会等の活動内容を報告している。市役所担当者からは2ヶ月に1回開催するよう指導され、家族からは昼食を兼ねた会議の開催、入居者と家族および職員との小旅行の実施、家族への書面による会議内容の通知、アンケート調査の実施などの意見や要望が提案されている。	○	運営推進会議を2ヶ月に1回以上開催し、議事録を作成すると共に、自己評価や外部評価の結果も議題にあげサービスの質の向上に活かされるよう期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の活動報告書を毎月持参する時や情報提供書を年1回提出する際に、情報交換をしている。また、毎月市が主催する地域ケア会議に出席し、情報提供を受け意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日常生活の状況や健康状態を報告し、面会の少ない家族には健康状態等を記した文書にドライブ等の写真を添付し報告している。下着や化粧水の購入代金および診察代等については預り金処理を行い、出納帳のコピーに領収書を添付し利用料請求時に精算している。職員の異動は面会時に、家族に自己紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の外部受付窓口を重要事項説明書に記載し、説明している。骨折で退院した入居者の家族からリハビリを実施して欲しいとの要望を聞き、申し送り時職員に伝え共有化を図り、椅子からの立ち上がりで足腰を強化する等日常生活の中でリハビリを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去2年間は職員の異動は行っていない。新規採用職員には「サービス提供マニュアル」を教本に指導を行い、入職当初は経験者がマンツーマンで指導し入居者の性格等を教えている。また、初回の夜勤は二人体制を取り指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修パンフレットを供覧し積極的な受講を促し、認知症介護基礎研修や認知症介護実践者研修・感染症対策研修会・音楽療法講習会等を受講し、研修内容は申し送り時に発表している。接遇等については全職員が集まる機会等に管理者が話している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人が経営するグループホームが県内外にあり、県内の系列ホームの畑で合同の収穫祭やもちつき大会・イモ煮会を開催し交流を図っている。他法人が運営するグループホームとの交流は行っていない。	○	ホーム長や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じてサービスの質の向上に取り組まれるよう期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人や家族の見学やお試し入居を行っている。自己紹介で住所地名を話題にし、入居者は市内出身で地名や住民を知っており話が弾み、入居に伴う不安が解消されるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	芋がら料理や沢庵漬けを教わったり、下膳や食卓拭き・床掃除や窓ガラス拭きを一緒に行い、「ありがとう」の気持ちを大切に共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居契約時に生活歴や病歴・趣味嗜好を聞き、本人や家族の意向や希望に添った支援をしている。意思表示の困難な入居者は日常生活の中から喜怒哀楽の表情を把握すると共に、家族の意向等に基づき本人本位のケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月行うモニタリングの内容や家族の意向・希望を取り入れて介護支援専門員が計画原案を作成し、ケア担当者会議で原案について話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期見直しの他、毎月行うモニタリングや退院時の体調の変化に応じ随時見直しを行い、介護計画を家族に説明し話し合いの後署名を頂いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の意向により職員が受診の送迎をしたり、入居者の希望による自宅訪問や実家の新築祝いにも職員が送迎している。近隣からの入居者は、毎夕食時家に帰り家族と食事を共にするなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診の際は原則家族が送迎し、その際日誌等を家族に渡している。前回検診時と比較し健康状態等に変化があれば、職員が医師に電話で状況説明を行っている。協力医は毎月1回往診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係わる指針」を、契約後家族に説明している。家族の希望により可能な限り重度化に対応することとし、医師の指示で入院の場合もある旨を説明している。医師の指導を得て、訪問介護ステーションを利用し終末期ケアを行い、家族は相談室に宿泊し看取りをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁時も尊厳を傷つけないさりげない言葉かけを行い、一人ひとりの人格を尊重した支援をしている。日誌の記入は食堂で行い食堂の書棚に保管し、個人の記録は事務室で行い書類は事務室に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示の出来ない人には言葉かけを行いその反応を探り、本人本位の支援を行っている。一人だけのドライブや希望する化粧水の買い物、食事の時間など一人ひとりの思いや希望に添い柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳やテーブル拭きを手伝い、入居者と職員が食卓を囲み楽しい一時を過ごしている。また、入居者の希望を取り入れた外食行事を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回(夏は週3回)の入浴を行い、希望があれば就寝前の入浴にも対応している。入浴を拒否する人は無理強いすることなく、順番を遅らせるなどで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器の片付けや洗濯物たたみ、毎朝の清掃など入居者の力量にあった役割を担っている。焼きまんじゅうや鯛焼きを買いに行ったり、季節毎の花見や祭見物をしたり、大塩湖や丹生湖へのドライブ、職員と2人だけのドライブなど楽しみや気晴らしを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じておやつや化粧品の買い物をしたり、車いすの人も交えて散歩に行ったり、季節ごとの花見や祭り見物、大塩湖へのドライブなどに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前は道路であり、入居者の安全確保の面から玄関は施錠され、訪問者はインターホンで来意を告げている。	○	鍵を掛けることの弊害を運営者・ホーム長および職員で話し合い、入居者の安全を確保しつつ、日中は鍵を掛けない工夫をされるよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消火・避難訓練の内1回は消防署の指導の下に行い、消防署からは夜間を想定した訓練を行うよう指導を受けている。地域の人達への協力依頼は特に行っていないが、地区の人達からは協力すると言っている。	○	夜間を想定した訓練を行うと共に、地域住民への協力依頼を運営推進会議等で行うよう期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の内容を記録し、栄養バランスに配慮した調理を行っている。業務日誌に食事摂取割合を記入している。水分補給は1日1200cc～1500ccを目安に時間毎の摂取量も業務日誌に記録している。人工透析の人は主治医の指導で1日600ccの決められた量が記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から陽光が差し込み、天井の扇風機が温度を調整し、和室の炬燵とソファでくつろげるようになっている。玄関脇のプランターに花が咲き、玄関を入るとゆずの小枝が花瓶に活けられている。栗と紅葉の飾り付けが居間に掛けられ季節感を感じられるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、テーブル、椅子、洋服ダンス、整理ダンス等が持ち込まれ、化粧水を持参している人がいる。ベッドからの転落防止のため家族と相談し床に布団を敷き寝ている人もいる。		